

The NEXTと中小企業

濱 田 康 行
 (公益財団法人はまなす財団)
 (理 事 長)



資本主義の次に来る社会、といってもまだ輪郭もはっきりしていません。そこで、このぼんやりした対象に、とりあえず名前をつけておきます。The NEXT。

2008年のリーマンショックを契機に資本主義のあとの世界についての議論が沸き起こりました。ショックは金融界にとどまらず実物世界に及び、不況、倒産、失業が世界的に深刻になりました。しかも震源が、資本主義の最先端と見られていたニューヨークの金融界だったから動揺は大きかったのです。

資本主義には構造的な欠陥がある。これはマルクスをはじめ多くの巨匠達が言い残していったことです。しかし、資本主義は思った以上に頑健かつ柔軟でした。日本の高度成長などは、それを示した良い例でしょう。そうこうするうちに、革新理論に基づいて成立したはずの社会主義体制が先に滅んでしまいました。

対抗馬が落馬。資本主義はもはや安泰と思われました。しかも、優秀な人材と、当時の最先端コンピューター技術で武装した金融界を側近とする布陣です。だから2008年の出来事は、経済という下部構造だけでなく、思想・精神世界にも大きな動揺を与えました。ここから、二度目の反省が語られ、それが理論化されていきます。

私は、事件の1年後に『商工金融』の紙面を借りて、当時の諸々の反省を整理しました。(「世界金融危機解題」、2009年10月)。

ところが資本主義は、まだ頑健さを保っていましたし、幸運な状況もありました。当時の麻生総理が全治3年といったのを覚えています。じきに回復の兆しを見せたのです。私の見立てでは、各国の巨額な財政支出もありますが、最も効いたのは中国が資本主義市場に本格的に参加したことです。この6月に英国で開催されたサミットでフランスの大統領が「中国は、サミットに参加したすべての国にとって不可欠のパートナー」と発言した。バイデンさんには不都合な真実ですが、拒否することのできない構造です。

しかし、この十年、頑健さに陰りが見えてきたのです。その象徴が、アメリカの製造業の利潤率の傾向的低下でしょう。日本経済にもデフレーションという厄介な病気が取り付いて離れません。生産には一定の時間がかかるのですが、製品ができたときに価格が下がっていると儲からない。資本主義の目的は利益ですから、こうなると投資がなされない。資本主義の自己否定です。そこで「資本主義の終焉」という言葉がよく使われるようになります。エンジンが弱ったことに加えて、困ったときは助けてくれるはずの国家が財政危機、環境の悪化は進む、貧富の格差は拡大し、家庭やコミュニティという社会の基礎に傷が目立ってくる、等々で、反省も経済学の枠を超えて多面的になっていきます。でも、いまひとつ迫力がない。

何故か？哲学者の岡本裕一郎さんやドイツ人のシュトレークが「資本主義に代わる実効可能な代案がない」と批判しています。つまりTheNEXTですが、ないのではなく示せないのです。では、どうやって行き詰まりから道を開くのか。考え方に、一つの工夫をしてみます。

The NEXTでは、どんな経済主体が存在しているか、あったほうが良いか？それを考えてみる。私は次の3つ、農業生産主体、製造・サービス分野では中小企業、最後に分野を問わず協同組合をあげたい。

農業が必要なことは説明不要です。ただ、イメージするのはアメリカに見られるような大農業ではありません。世界市場という、顧客の顔が見えないところではなく、もう少し狭いエリアを対象とする中小の経営体を考えています。食料の安全性が、環境の保全が、生産・消費の両側から見える、その程度の規模でよい。(もちろん、すべての農産物に主張していません。)

中小企業。なぜ大企業といわないのか？The NEXTは、疎外感のない人間中心の世界です。「中小企業は人間との一体性が高い」から、親和性が強いのです。

中小企業を推挙する理由が他にもあります。それは、働く人の創造性が発揮しやすいから。新しい、人の役に立つものを作りたい、そう思っている人は製造現場に多い。これは人々に内在している精神で、資本主義の頑健さの1つの源泉です。例えば私が事業を始めるとします。最初は一人ですが、成長すれば、まず小さな組織になる。ここでは、働く人が、“なんのために”を理解していますから、疎外感が生じにくい。The NEXTでは、働き方は強制であってはならない。自律的で、快適なものであるはず。絶望工場から、働くことの意味を理解した、いわば joy and fun (堀場雅夫さんのモットー) の行き渡った職場です。

ここまで中小企業を礼賛すると反発もあるでしょう。生産性はどうするんだ？と。トヨタの優れた生産性は規模に起因する面が大きいのでは。でも、それだけではない。生産性は、働く人の自律性や中小の生産単位が有機的に繋がることでも達成される。優秀な現場を研究した多くの文献がそれを示しています。

The NEXTは資本主義の遺産を継承します。大量の物的ストックがある。農業分野を除いて物不足はさほど心配しなくて良い。だから生産性オンリーから人間中心の価値観に移りやすい状況にあるはずです。

さいごに協同組合。最近の脳科学の研究によれば、同情とか共感は人に内在するのだそうです。そうであれば、協同組合は未来形としてもっと注目されてよい。そうならないのは、私達の身の回りに必ずしも良い例がないからでしょう。でも、弁護しておきます。既存の協同組合は資本主義の海に浮いていて企業と競争しているので、敗退しないように自分を作り変えざるを得ないのです。逆に言うとThe NEXTの構成要因になるにあたっては、自己変革は必要です。先に述べた中小企業もこの点は同様で、そのまま未来形ではありません。

2021年度の「男女共同参画白書」はコロナ禍を「女性不況」と表現しています。The NEXTでは、女性の活躍が保証されているはずですが、この点でも女性の管理職比率が高い中小企業は未来型です。

3つあげましたが、もう一つ。それは様々な組織の利害を調整する何らかの機関です。

あえてこれを国家と言わない。それでは元の木阿弥ですから。例えばD・ベルの公共家族のようなイメージです。調整する、方向を示す、企画する、計画する、そういう能力を持った理性的な、言葉の真の意味で政治的な組織でしょう。

SDGsのスローガン、誰一人取り残さない、は心に響きます。資本主義は、あまりに多くの人を置き去りにしてきました。The NEXTの具体化に向けて、すべての社会科学が知恵を絞る。1929年、2008年、そして今回、何しろ3度目の正直ですから。